

ワークショップ 4

「慢性便秘症の病態・診断・治療の最前線」

司会 中島 淳（公立大学法人横浜市立大学）

石原 俊治（島根大学医学部内科学講座第二）

近年、慢性便秘症の治療薬として様々な作用機序を有する薬剤の臨床使用が可能となった。しかし、本症の病態には、消化管運動、炎症、免疫、消化管ホルモン、腸内細菌など多様な因子が関わっており、病態に見合った治療法の選択は必ずしも容易ではない。本ワークショップでは、慢性便秘症の病態に関する最新のエビデンスを踏まえ、新たな診断法や最適な治療法の選択に関する議論を期待し、幅広い分野からの演題を募集する。